

# 第一回報告書

2018年秋よりイエール大学統計学部の修士課程に進学しました山田祐太郎と申します。一回目の報告書では進学に至るまでの経緯について書きたいと思います。

## 1. 進学に至るまで

中学の終わりから漠然と海外の大学に行きたいと思っていて高一での一年間の交換留学を通してその思いは具体的な目標に変わり、アメリカのイエール大学に進学しました。専攻を入学時に決めなくてよかったこともあり、学部前半では様々な授業を取ることで進みたい分野を模索しました。学部2年の時に友人の勧めで参加したデータサイエンスサークルの会合を通して統計学・機械学習の面白さに触れ、専攻を統計学と応用数学に決めました。

統計学は大雑把に言えば単なる数字の羅列であるところのデータからいかにして有用な知見を獲得するかという問いに様々なアプローチを使って答えようとする分野ですが、その汎用的な問題解決技術としての側面に惹かれ、より深く理解したいと思い博士課程進学を決めました。Ph.D.受験の際には学部での研究成果が重要となりますが、研究を始めたのが遅かったので学部卒業後一年間は研究員として大学に残り研究に励みました。

## 2. 大学院出願

統計学部は面接をせずに書類のみで合否を決定するところが多いようです。面接の連絡があったのは出願した9大学のうちCambridgeとDukeからでした。結果としては芳しくなく、CMUのwaitlistの他はYaleのM.A.のみ合格となりましたが、財団のご厚意により翌年Ph.D.へ再出願することを条件に修士での支援をいただけることになりました。

## 3. 反省点など

GREは学部時代のもっと時間に余裕のある時に受けていれば良かったと反省しましたが、学部時代は学部時代で忙しかったようにも思うので難しいところです。また数学オリンピックやPutnam competitionでのaward相当の実績、NeurIPS/ICML/AISTATS等の理論的貢献のある論文なしに理論統計の人として出願するのは悪手だということがわかりました。僕の同期やそれ以降の年代の出願結果を見ていると、理論系の実績や論文のない場合は統計x何かというようにポジションを取ったアプリケーションを意識すると統計学部に出願する際の合格可能性をあげるという点では良さそうに思えました。

# 第一回報告書

## 4. 最後に

第二回、第三回の報告書で詳述しますが、この一年の間経済的な心配なく勉学や研究に集中できたおかげで幾多もの貴重な機会に恵まれました。M.A.での留学を実現させてくださった船井財団関係者の方々にこの場を借りて深くお礼を申し上げます。